



## 七夕ゆかりのまち・枚方

### ●『伊勢物語』第8 2段「渚の院」



国文学研究資料館 鉄心斎文庫『伊勢物語絵巻』（江戸時代成立） <https://doi.org/10.20730/200024363>

『伊勢物語』は平安時代前期に成立した物語です。在原業平をモデルとするといわれる「昔男」の歌物語を中心に成立しています。

「渚の院」は惟喬親王（これたかのみこ）の離宮が水無瀬にあったときのお話です。毎年、桜の花ざかりになると、惟喬親王は水無瀬離宮を訪れていました。水無瀬のすぐ近くにある交野（枚方市）の渚にある院の桜は、特に美しいものでした。在原業平が歌を詠みます。

世の中に 絶えて桜の なかりせば  
春の心は のどけからまし  
（この世に桜がなければ、  
春、私たちの心はどれほど安らかでしょうか）

日が暮れたので、一行は渚の院を離れ「天の川」（枚方市禁野）というところにたどり着きました。惟喬親王が言います。「交野で狩りをし、天の川のほとりまで来た、という題で和歌を詠もう」と。

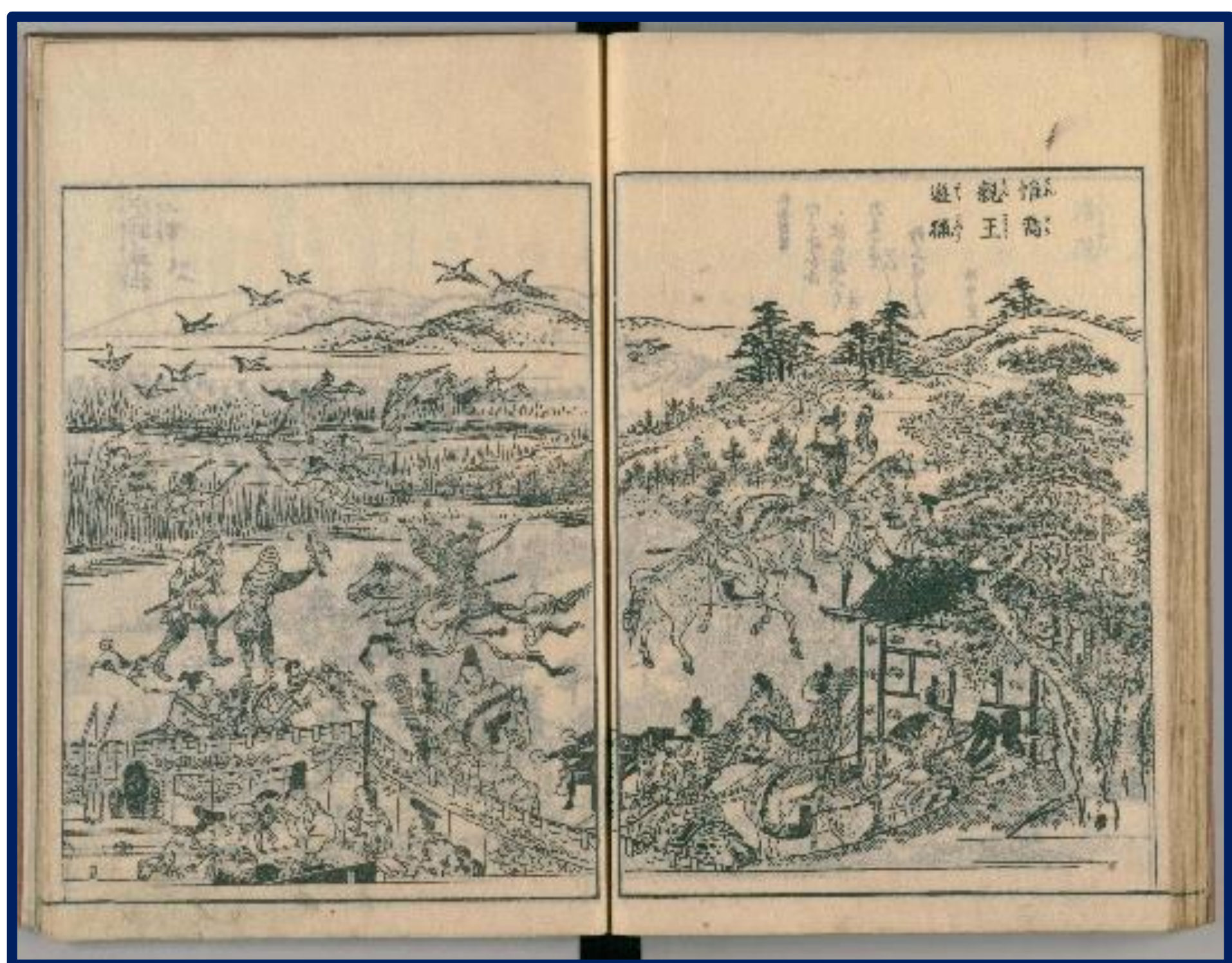
在原業平が和歌を詠みます。  
狩り暮らし 七夕つめに 宿からん  
天の川原に われは来にけり  
（一日中狩りをして、日が暮れました。織女に宿を借りましょう。天の川にやってきたのだから！）

惟喬親王はこの和歌をくりかえしくりかえし朗唱して、在原業平の和歌のうまさに感心していました。

平安時代、枚方を舞台とする星の物語の誕生です。

### ●江戸時代の「渚の院」

江戸時代の名所図絵（ガイドブック）『河内名所図会』は渚院付近を訪れた惟喬親王の「遊獵」図を描いています。



国立国会図書館デジタルコレクション『河内名所図会』第六巻。 <https://doi.org/10.11501/2563476>

### ●「渚の院」へ行ってみよう！（京阪本線・御殿山駅下車）



水無瀬周辺図